

東京都在宅高齢者実態調査（専門調査）の概要

1 調査の目的

東京都在宅高齢者実態調査（専門調査）（以下「専門調査」という。）は、在宅高齢者及びその家族に対して訪問調査を実施し、認知機能の程度や心身の健康状態、その他の生活実態を把握することにより、都における認知症高齢者への支援に向けた施策の検討の基礎資料とするものです。

2 調査期間

平成 20 年 8 月～平成 20 年 12 月

3 調査方法

調査員による訪問調査

4 調査票の構成

調査票は、家族または本人票、家族票、本人票、調査員票の 4 つにより構成

5 調査の項目

本人に対して、MMSE（Mini-Mental State Examination）（ 1 ）を実施し、引き続き以下の項目について本人または家族に尋ねました。

(1) 家族または本人に聞く項目

本人の属性、公的なサービスや支援制度の利用状況、本人の経済状況 等

(2) 家族に聞く項目

家族の地域の社会資源の認知度、本人の近所との関わり、介護、本人の心身の健康状態、家族が利用したいと思うサービスや支援（自由回答） 等

(3) 本人に聞く項目

楽しみややりがい、不安、居留意向、今後希望する過ごし方（自由回答） 等

6 回収状況及び分析対象者の抽出

都が定めた都内 13 の老人福祉圏域のうち、島しょ圏域を除く 12 圏域それぞれから選んだ 12 区市町村から、住民基本台帳により無作為抽出した在宅高齢者 5,000 人を対象に、郵送による「在宅高齢者実態調査」（ 2 ）及び「専門調査」の MMSE による 2 段階のスクリーニングを実施した結果、認知症の疑いのある程度に認知機能の低下がみられた 250 人とその家族を分析の対象としました。

分析の対象となる各調査票の母数は次のとおりです。

なお、今回の調査は、あくまで MMSE により、認知症が疑われる者を抽出したものであり、250 人すべてが認知症と確定診断されたわけではありません。

家族または本人票 250 人（ただし、 - 1 票の問 1、問 2 については 76 人）
 家族票 111 人
 本人票 250 人
 調査員票 250 人

1 MMSE（Mini-Mental State Examination）代表的な認知症の評価スケールの 1 つ

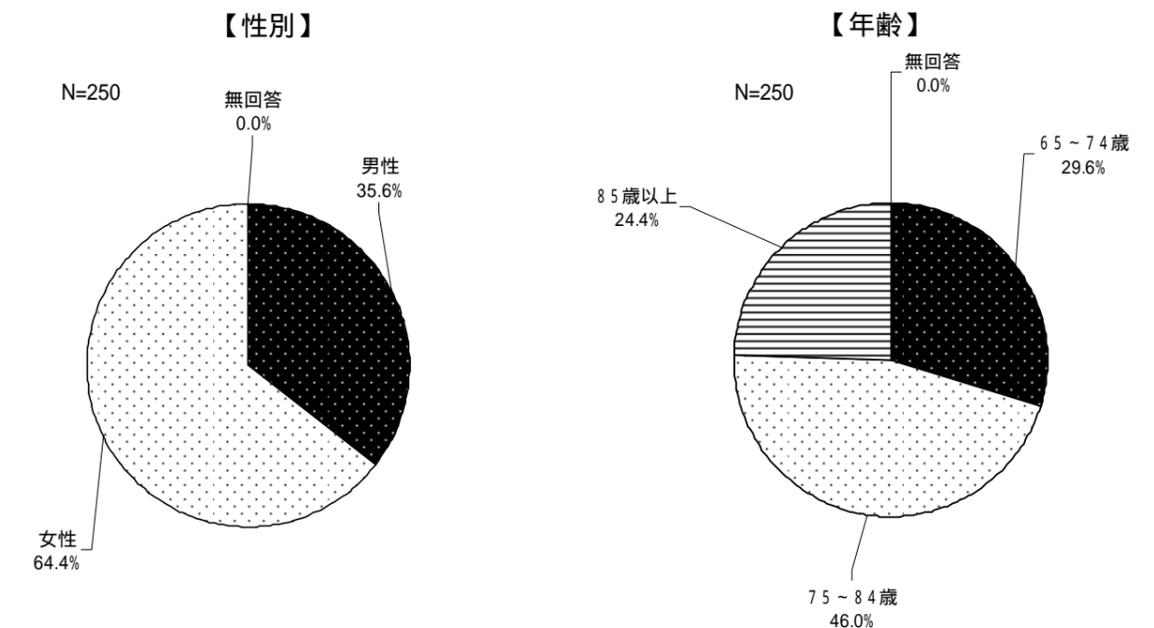
2 都の高齢者施策の展開に当たり、都民の介護保険サービス等へのニーズや高齢者の現状を把握することを目的として行った調査。

7 調査結果の概況

(1) 本人の属性（「家族または本人票」から）

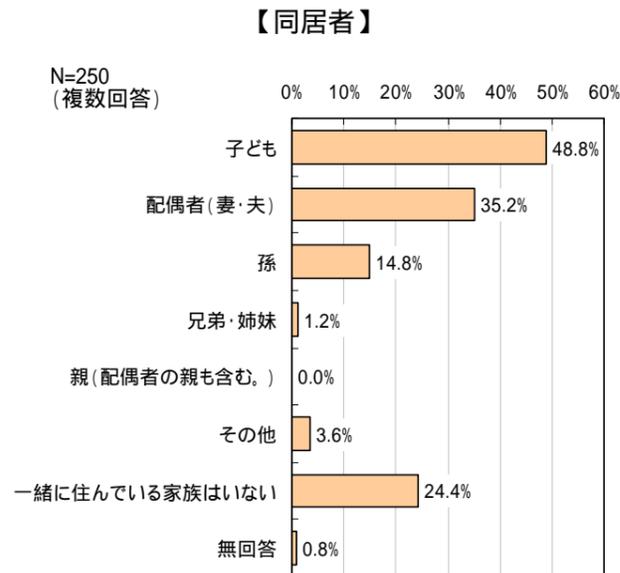
性別は、「男性」が 35.6%（89 人）、「女性」が 64.4%（161 人）となっています。

年齢は、「75～84 歳」が 46.0%（115 人）と最も多く、次いで「65～74 歳」が 29.6%（74 人）となっています。平均年齢は 78.8 歳となっています。



(2) 同居者（「家族または本人票」から）

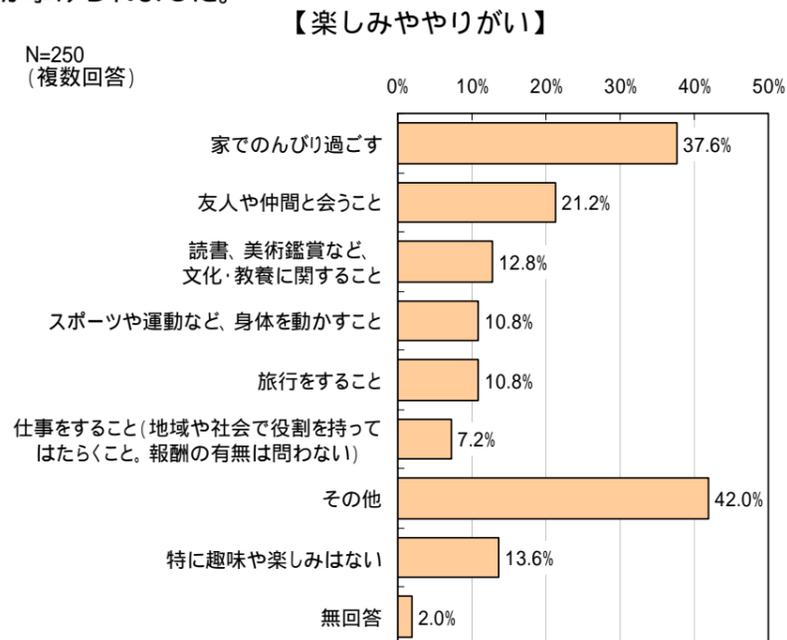
「子ども」が 48.8%（122 人）と最も多く、次いで「配偶者（妻・夫）」が 35.2%（88 人）となっています。「一緒に住んでいる家族はいない」も 24.4%（61 人）ありました。



(3) 本人の今後の希望（「本人票」から）

現在楽しみややりがいを感じていること

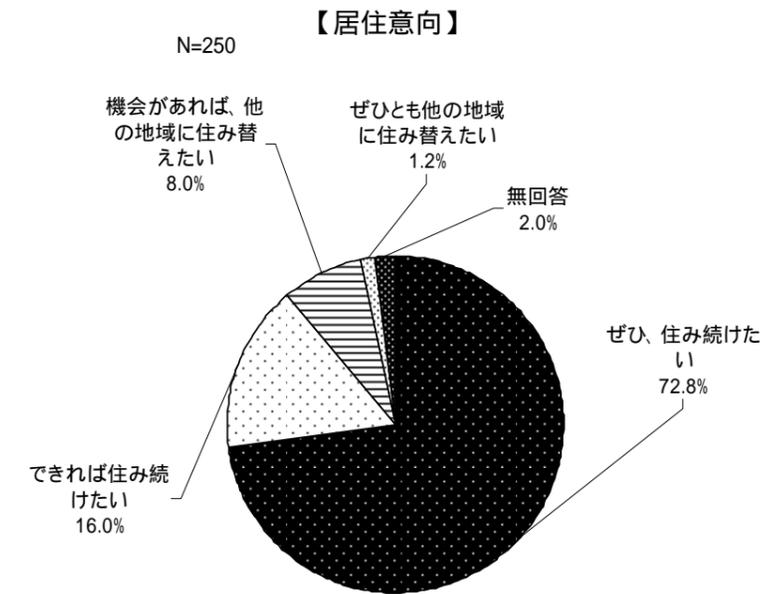
現在の楽しみややりがいを尋ねたところ、「家でのんびり過ごす」が 37.6%（94 人）と最も多く、次いで「友人や仲間と会うこと」が 21.2%（53 人）となっています。「その他」では、「カラオケ（11 件）」、「庭作業や野菜作り（11 件）」、「デイサービス・デイケア（9 件）」、「散歩（8 件）」、「老人クラブや地域のセンター（5 件）」などが挙げられました。



今の地域に住み続けたいか

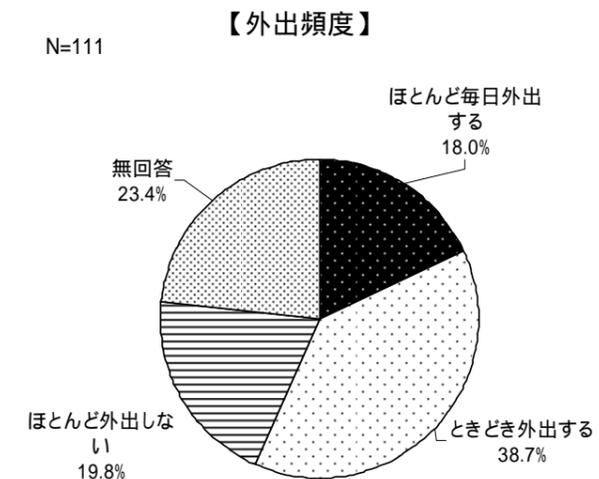
今の地域に住み続けたいかどうか、居住意向を尋ねたところ、「ぜひ、住み続けたい」が 72.8%（182 人）と最も多く、次いで「できれば住み続けたい」が 16.0%（40 人）となっています。

なお、住み続けたい理由は、「地域の様子をよく知っていて、慣れているから」が 39.6%（88 人/222 人）と最も多く、住み替えたい理由は、「親や子ども、親族、知人など知り合いの近くに住みたいから」が 26.1%（6 人/23 人）が最も多くなっています。



(4) 本人の外出頻度（「家族票」から）

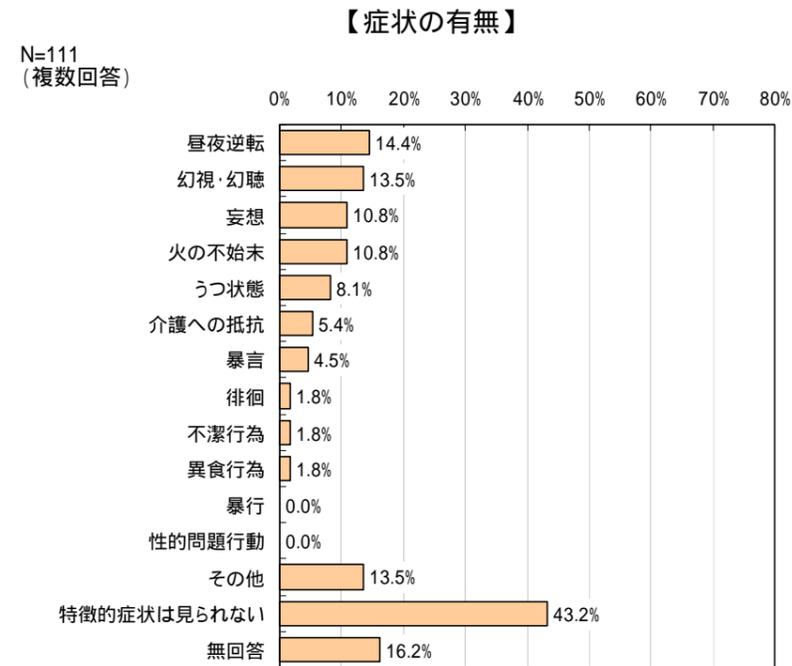
本人の外出頻度は、「ときどき外出する」が 38.7%（43 人）と最も多く、次いで「ほとんど外出しない」が 19.8%（22 人）となっています。



(5) 本人に生じている症状・通院状況（「家族票」から）

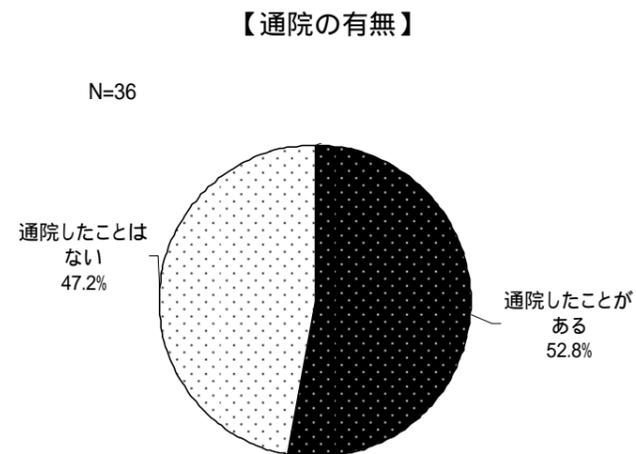
特徴的な症状の有無

本人の心身の健康状態について、以下の症状が生じているかを尋ねたところ、「特徴的な症状は見られない」が43.2%（48人）と最も多く、次いで「昼夜逆転」が14.4%（16人）、「幻視・幻聴」が13.5%（15人）となっています。



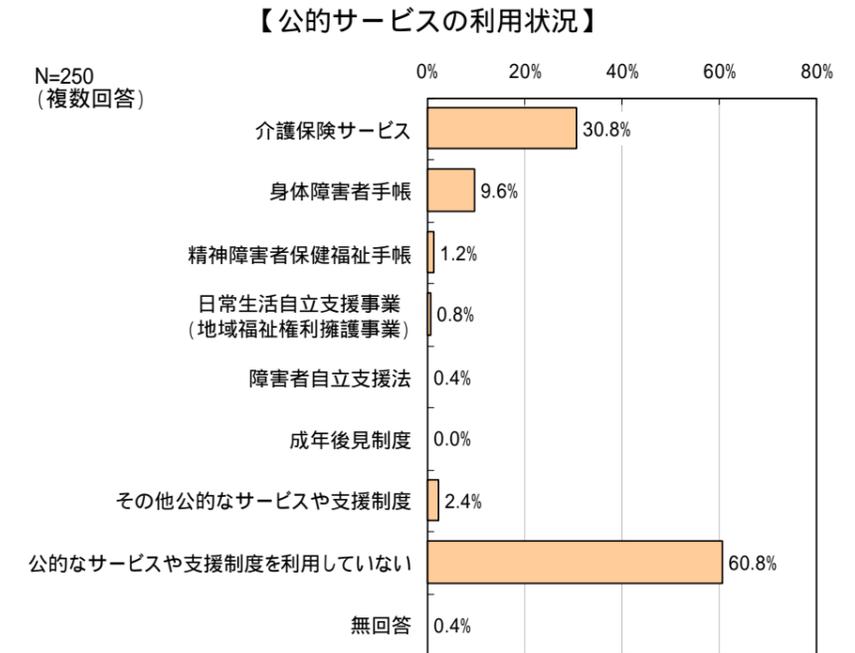
その症状のための通院状況

「昼夜逆転」～「性的問題行動」までの症状があったと回答した人に対し、その症状の診断や治療のための通院の有無を尋ねたところ、「通院したことがある」が52.8%（19人）、「通院したことはない」が47.2%（17人）となっています。



(6) 公的サービスの利用状況（「家族または本人票」から）

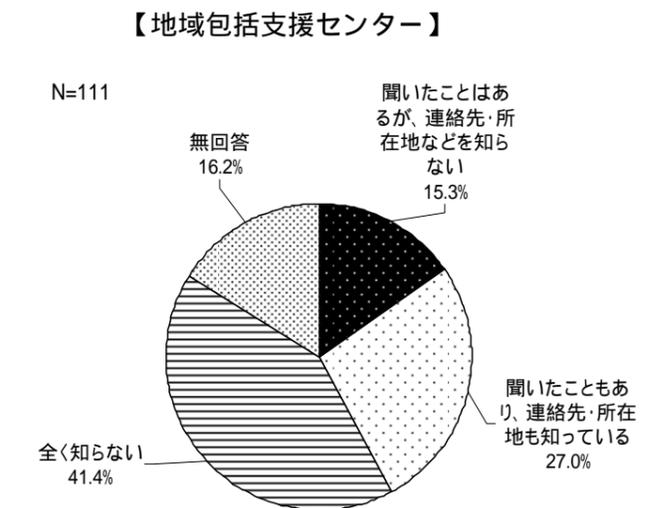
公的サービスや支援制度の利用状況を尋ねたところ、「公的なサービスや支援制度を利用していない」が60.8%（152人）と最も多く、次いで「介護保険サービス」が30.8%（77人）となっています。



(7) 家族の地域の社会資源の認知度（「家族票」から）

地域包括支援センター

家族に対し、地域包括支援センターの認知度について尋ねたところ、「全く知らない」が41.4%（46人）と最も多く、次いで「聞いたこともあり、連絡先・所在地も知っている」が27.0%（30人）となっています。



民生委員

家族に対し、民生委員の認知度について尋ねたところ、「聞いたことはあるが、会ったことはない」が45.0%(50人)と最も多く、次いで「聞いたこともあり、会ったこともある」が37.8%(42人)となっています。

